

## 保育の質を高めるための指導計画の評価 —担任保育者による評価内容の分類—

鍛治 礼子<sup>1</sup> 中島千恵子<sup>2</sup>

### A study on evaluating education plans by kindergarten teachers for improve quality of childcare practice

Reiko Kaji<sup>1</sup> Chieko Nakajima<sup>2</sup>

**Abstract:** The purpose of this study is to investigate what kinds of contents improve quality of the child care through the evaluation of education program by the class teachers. We analyzed the descriptions of the evaluation by five kindergarten class teachers, and also obtained information through questionnaire in order to evaluate their program. The contents of descriptions were classified into four categories; one of which was a description about unexpected events. The results of the questionnaire show that teachers felt some difficulties to describe children especially their mental growth. It is very important for the teacher to be able to support the children flexibly when unexpected event happen. This study suggests that the description of the evaluation by the teacher about unexpected events will improve quality of child care.

**Key Words:** quality of the child care 保育の質 evaluation 評価 education program 指導計画 description 記述 unexpected event 予想しない出来事

#### 1 研究の目的

現在の保育を取り巻く環境は、子育て支援としての保育の長時間化、障害のある幼児への適切な指導、地域との連携等、保育者にとっての厳しさが増している。一人一人の保育者が抱える仕事の内容が広がり新たな課題を抱える中で、自分の保育実践の質をどのように確保していけるのかは、保育者自身にとっての大きな課題となっている。

近年は社会的な要請から、保育所では第三者評価が、幼稚園では学校評価の取り組みが行われるようになり、施設や人員、保育者の姿勢等が外部によって評価され、自己評価と併せて各園の保育の質について一定のレベルで確保していることを可視化するものとなっている。しかし保育現場において、子ども達の育ちへの影響

が大きいのは、外部からは見えにくい保育者の子ども達へのかかわりの質であり、考えられ計画された環境構成である。これらの質を向上させるためには継続的な研修を各園や自治体において実施するとともに、園内の保育者間や保育者自身で行われる保育の評価についても改善していく必要があると思われる。本研究では、保育の質を高めるために保育者が行なう手立ての一つとしての指導計画の評価について検討し、保育者が保育実践を振り返る際に有効な新たな視点を見出すことを目的とする。

保育の質を高めるための一つの要素として保育者の力量を向上させることは大変重要である。保育者の力量について、本稿では「保育の専門性を適切に発揮できる力」と捉える。保育の専門性について、幼稚園教員の資質向上に関する調査研究協力者会議報告書（平成14年）によると「豊かな人間性等の資質」の他に8つの専門的な力を挙げている<sup>1</sup>。幼児理解や総合的

1 東京純心女子大学現代文化学部こども文化学科

2 千葉経済大学短期大学部こども学科

に指導する力、特別な教育的配慮を要する幼児に対応する力、保護者及び地域社会との関係を構築する力等、幅広いものである。また、「幼稚園教育要領解説」(平成20年)<sup>2</sup>では、保育者が果たすべき多様な役割について、遊びを中心とした教育を実践すること、そのための環境構成をすること、適切ななかかわりをするなどが挙げられ、「幼稚園教育の内容を理解し、これらの役割を教師自らが責任をもって日々主体的に果たすこと」(P45)、つまり、「幼児一人一人の行動と内面を理解し、心の動きに沿って保育を展開することによって心身の発達を促すよう援助すること」(同)とされている。実際、保育者が日々の保育にあたっていつも重視していることは、このような、子ども一人一人を理解し適切に援助することであろう。保育の専門性は幅広いものであるが、まず、日々の子どもののかかわりの質を適切にしていくことが重要であると考ええる。

さらに、子ども達への理解を深めて適切に援助するためには、「幼児の活動を教師自らののかかわり方との関係で振り返ることが大切」(同)であり、実践の中で振り返り、また反省を次の実践へと結び付けていくという「これらのことを日々繰り返すことにより幼稚園教育に対する専門性を高め、自らの能力を向上させていくこ

とができる」(同)としている。筆者らは実際に保育者として勤務していたが、このように保育を振り返ることの大切さや、それが自身の保育へ及ぼす影響の大きさについて実感することができる。

保育を振り返ることは、保育者自身の内面に向かって掘り下げ、考えを深めていく時に「省察」と言うこともある。また、指導計画や指導案といった外的な基準を元にした振り返りの部分を「反省・評価」と呼ぶことが多い。本稿では後者について取り上げる。

担任保育者は、保育の全体を構想し、指導計画を立案し、環境を設定し、実際に保育を行い、実践について振り返り、計画を修正し、という一連のサイクルの中で大きな責任を持つ。保育現場には、担任保育者以外にもいろいろな保育者や職員がいて協働しながら保育が進められているが、子どもの保育について直接責任を負い、子どもへの影響が大きいのは担任保育者である。そこで本研究では担任保育者による指導計画に沿った評価を取り上げることにする。

指導計画に沿った反省・評価は、もちろんすぐに次の日・期の保育に寄与するものであるが、同時に、残しておくことで次年度にその組を持つ保育者の立案や実践に対しても大変役に立つものである。記述内容から、保育者が必要

図1 長期指導計画の期の区切り

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3歳児	1期		2期		夏季休業	3期		4期		冬季休業	5期	
	1学期					2学期					3学期	
4・5歳児	1期		2期			3期		4期			5期	

表1 内省報告の質問項目

質問文
① 期の保育について「大変だった、気になった」と思うことは何でしたか？
② 期の保育について「よかった、うまくいった」と思うことは何でしたか？
③ 期の反省評価に書ききれなかったこと・書けなかったことは何ですか？
④ 期のまとめをしてみて、評価で困ったこと・難しかったことは何ですか？
⑤ 期のまとめをしてみて、評価しやすかったものは何でしたか？
⑥ その他、感じていることや疑問などご自由にお書きください。

①②は該当する項目を選択して自由記述回答する。選択項目は、教材研究・子どもへの指導・保護者への対応・教師同士の連携・その他③以下は自由記述

に応じて情報をピックアップしていけることが望ましい。本研究では、そのような有用な情報はどのようなものかについて検討していく。

## 2 研究の方法

【研究協力園】T大学教育学部附属幼稚園

【研究対象】平成17年度2学期（3期・4期）に行われた担任保育者5名（3歳児1名，4歳児2名，5歳児2名）による長期指導計画（3期・4期）の評価の記述（A3判1枚～5枚）と評価についての内省報告。当園の期の分け方を図1に，内省報告していただいた項目を表1に示す。

【担任保育者による評価の方法】3歳児担任保育者と4歳児担任保育者はそれぞれ単独で自由記述によって長期指導計画と保育実践の評価をしている。5歳児は2クラス合同の生活のため，

担任保育者2名が話し合って評価し，期ごとに交代して1名が自由記述していく方法を取っている。

【分析手続き】分析者2名は，長期指導計画の評価の記述を1文あるいは1文とみなすことのできる文章のまとめりにごとに長期指導計画の内容と対応させ，予め長期指導計画にあった内容についての評価の記述と長期指導計画になかった評価の記述とに分類した。次に長期指導計画にはなかった内容について，1文あるいは1文とみなすことのできる文章のまとめりに内容をカテゴリーに分類した。

内省報告については，質問項目ごとに回答の内容をまとめ，そのまま表に表わした。

## 3 結果

### ①長期指導計画の視点の整理

表2 長期指導計画の内容と評価観点（アンダーラインは評価の記述に取り上げられていたもの）

	3歳		4歳		5歳	
	3期	4期	3期	4期	3期	4期
人間関係	・教師との触れ合い	・友達とかかわりを楽しむ	・ <u>気の合う友達と一緒に遊ぶ</u>	・ <u>気の合う友達とのかかわりを楽しむ</u>	・いろいろな友達と誘い合って遊ぶ	・いろいろな友達と誘い合って遊ぶ
	・友達とかかわろうとしたか	・友達と一緒に遊んだか	・アイデアを伝える	・共通のイメージをもつ	・自分の気持ちを言う	・自分の気持ちをわかりやすく伝える
	・気に入った友達がいたか	・同じイメージで遊べたか	・共通のイメージをもつ	・仲間意識	・友達の話をしつかり聞く	・友達の話をしつかり聞く
	・トラブルで気持ちを出せたか	・トラブルで気持ちを <u>出せたか</u>	・次の日も遊ぼうとしていたか	・クラスの仲間間との共通体験として	・イメージを共有して遊ぶ	・友達の話をしつかり聞く
	・相手にも思いがあることに気付く	・相手にも思いがあることに <u>気付く</u>	・クラスの仲間との共通体験としての遠足や運動会	・隣のクラスと一緒に楽しむ	・いや葛藤を経験する	・アイデアを出し合う
	・クラスの共通体験としての遠足や運動会を楽しめたか	・クラスの共通体験としての芋掘りや焼き芋	・他学年とのかかわり	・他学年とのかかわり	・話し合いで解決する	・友達と遊びをやり遂げる
	・したいことや困ったことを言葉にする	・困ったことを言葉で言う	・隣のクラスと一緒に楽しむ	・大勢でルールのある遊びをする	・必要な時に話し合う	・ぶつかり合いや葛藤を経験する
	・気持ちを伝える言葉が言えたか	・思ったことを考えたことを言葉で	・他学年とのかかわり	・ルールを守る	・譲ったり我慢したりする経験	・トラブルで解決しようと話し合う
			・集団遊びや簡単なゲームをする	・自分から入ろうとする	・2組合同の生活を楽しむ	・話し合い
			・ルールがなかったか	・トラブルで自分の気持ちを教師と一緒に <u>言ったり聞いたりする</u>	・大勢でルールのある遊びをする	・譲ったり我慢したりする経験
			・大勢で遊ぶ楽しさ	・相手の思いを受け入れようとする	・自分から入る	・大勢でルールのある遊びをする
			・トラブルで自分の気持ちを教師と一緒に <u>言ったり聞いたりする</u>		・ルールを守る	・ルールを守る
			・やってはいけないことがわかる		・抜けずにやり抜く	・大勢でルールのある遊びをする
			・いろいろな考えの子がいることがわかる		・遠足や運動会での集団行動	・ルールを守る

言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師に話したい気持ちを受け止めてもらう</li> <li>・自分の思いを教師や友達に言葉で伝えようとする</li> <li>・言葉が増えてくる</li> <li>・自然に触れ発見や驚きを言葉にする</li> <li>・自分の生活にかかわる言葉に興味をもつ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いを伝える</li> <li>・ごっこ遊びや劇遊びでの言葉を楽しむ</li> <li>・少しずつストーリー性のある話を楽しむ</li> <li>・指人形で演じて遊ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しかったことや経験などを教師や友達に伝えようとする</li> <li>・しりとりやなどな言葉遊びを楽しむ</li> <li>・思ったことと表現しようとする</li> <li>・遊びの中で自分の思いを伝える「やりたい」「かして」「いや」等</li> <li>・言葉で明日の見通しをもつ</li> <li>・絵本や紙芝居を楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉遊びを皆で楽しむ</li> <li>・しりとりを幼児同士で楽しむ</li> <li>・自分の思いを相手に伝える</li> <li>・会話するこゝとで遊びを楽しむことができる</li> <li>・話を聞く場できちんと聞く</li> <li>・生活のいろいろな場面での言い方を教わる</li> <li>・絵本や紙芝居を楽しむ</li> <li>・年長の発表会を見て演じることに興味をもつ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師や友達と楽しく会話する</li> <li>・気持ちを伝え、友達の話をしっかり聞き、受け止める</li> <li>・遊びの中で必要な相談をする</li> <li>・皆の前で話す</li> <li>・作品に印や名前を書く</li> <li>・絵本や紙芝居を楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要なことをわかりやすく伝える</li> <li>・友達の意見を最後まで聞く</li> <li>・人前でのびのび発表する</li> <li>・言葉遊びや伝言ゲームを楽しむ</li> <li>・絵本や紙芝居を楽しむ</li> </ul>
表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな曲をくり返し聞いたり踊ったりする</li> <li>・教師と一緒に喜んで踊る</li> <li>・教師と話し、イメージを膨らませて遊ぶ</li> <li>・個人の画帳に描く</li> <li>・自分なりに見立てたものを製作する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節感のある歌や手遊び</li> <li>・音楽に合わせて動いたり踊ったりする</li> <li>・身近な素材で楽器を作る</li> <li>・落ち葉や小型箱積み木での遊び</li> <li>・はさみやのりの使い方の紙類での製作</li> <li>・劇の再現遊びを見たり好きな役をしたりする</li> <li>・興味をもって年長児の発表を見る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節感のある歌</li> <li>・振りや覚えて踊る</li> <li>・リズムに使う簡単な飾りを作る</li> <li>・イメージに合う製作の素材を考える</li> <li>・描いたり作ったりしたもので壁面作りを楽しむ</li> <li>・中型箱積み木の工夫を楽しむ</li> <li>・空き箱製作について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節感のある歌</li> <li>・いろいろなリズムや振りを楽しむ</li> <li>・自分なりのイメージを楽しむ</li> <li>・製作したものを遊びに使う</li> <li>・どんぐりや落ち葉の製作</li> <li>・年長児の発表に興味をもって見る</li> <li>・クリスマスの飾り作り</li> <li>・中型箱積み木で見立て</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞の内容を理解する</li> <li>・音楽に合わせてのびのび動き楽しむ</li> <li>・木工で木材に親しむ</li> <li>・安全に行う</li> <li>・いろいろな素材の組み合わせやイメージの実現</li> <li>・絵の具、筆での表現を楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞の面白さや掛け合いを友達と楽しむ</li> <li>・分担奏を楽しむ</li> <li>・音楽に合わせてのびのび動きを楽しむ</li> <li>・イメージに向かって材料や作り方を工夫して製作</li> <li>・製作したものを遊びに取り入れる</li> <li>・大型箱積み木ではめあてをもって構成する</li> </ul>
連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と連絡を取り合い子どものペースを大切に</li> <li>・保育参加でいろいろな子どものよさを理解してもらう</li> <li>・運動会について、子どもや成長を取り組みへの理解をしてもらう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭でもうがい手洗いの習慣を大事にしてもらう</li> <li>・保育参加でいろいろな子どものよさを理解してもらう</li> <li>・焼き芋大会について</li> <li>・冬休みの過ごし方</li> <li>・初めて実習を行う実習生に対しては十分打ち合わせをする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園と家庭で連絡を取り合っ子ども達の様子を理解しよう</li> <li>・保護者に保育参加や運動会等行事のねらいや活動内容を連絡する</li> <li>・生活習慣面は子どもが自分のできるような配慮をしよう</li> <li>・公共マナーを家庭でも子どもに伝えていく</li> <li>・大学生とのふれあい(環境教育)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭でもうがい手洗いの習慣を大事にしてもらう</li> <li>・園と家庭で連絡を取り合っ子ども達の様子を理解していく(運動会での育ちや友達関係)</li> <li>・初めて実習を行う実習生には十分打ち合わせを行っていく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うがい手洗いの習慣について家庭と共に行う</li> <li>・運動会では友達と考えて作る過程について理解してもらう</li> <li>・小学生と楽しく交流する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあいの日の過ごし方</li> <li>・個人面談で話し合ったり小学校就学について不安を取り除いたりしていく</li> <li>・発表会の取り組みや友達と作り上げる過程について理解してもらう</li> <li>・初めて実習を行う実習生には十分打ち合わせをして適切な指導ができるように</li> <li>・大学生とのかかわり(環境教育)</li> </ul>

自然	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋の自然の発見や驚き</li> <li>・色水遊びや種取り</li> <li>・トンボやバッタなどの虫取り</li> <li>・教師と一緒に栗やどんぐり拾い</li> <li>・水・砂の感触を楽しむ</li> <li>・玉入れ（量や数への関心）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木の実集め・木の実の遊び</li> <li>・落葉・紅葉などを見たりする</li> <li>・落葉製作のコーナー</li> <li>・芋掘り・焼き芋に楽しく参加する</li> <li>・みかんや柿を取って食べる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏の花の開花や成長を見る</li> <li>・色水遊びや種取り</li> <li>・秋の虫を見る・取る・調べる</li> <li>・栗やどんぐり拾いどんぐり製作</li> <li>・小松菜の種まきをして発芽や成長を見る</li> <li>・玉入れやラリー（数える）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落葉・紅葉・木の実など集める</li> <li>・落葉製作を楽しむ</li> <li>・芋掘りや焼き芋を楽しむ</li> <li>・みかんや柿を取って食べる</li> <li>・チューリップの球根植えや花菜の種まきをする</li> <li>・風や水の冷たさを感じる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色水遊びや種取り、虫取りを楽しむ</li> <li>・栗やどんぐりを拾う</li> <li>・気候の変化を感じる</li> <li>・玉入れやラリー（数える）</li> <li>・自分達が植えた芋苗の収穫を楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落葉の製作を十分楽しむ</li> <li>・芋掘りを楽しむ</li> <li>・みかんや柿を取って食べる</li> <li>・北風の寒さ、カメの冬眠</li> <li>・ヒヤシンス・クロッカスの水栽培</li> <li>・なわとび（数える）ゲーム等のチーム分け（数える、多少）</li> </ul>
運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師とのびのび体を動かす</li> <li>・教師と一緒に走ったり応援したりする</li> <li>・みんなでゲームを楽しむ</li> <li>・運動会に興味をもち喜んで参加する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸外で教師と一緒に体を動かす</li> <li>・簡単なルールのある遊びを教師や友達と楽しむ</li> <li>・みんなでゲームを楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アスレチックや他の遊具などに挑戦する</li> <li>・花いちもんめや鬼ごっこ等集団遊びを楽しむ</li> <li>・かけっこやリズムを楽しむ</li> <li>・運動会に期待して楽しく参加する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋の気候の中で積極的に体を動かす</li> <li>・花いちもんめや鬼ごっこ等集団遊びを楽しむ</li> <li>・運動会で楽しかった遊び</li> <li>・友達に刺激されなわとび等に取り組む</li> <li>・年長のドッジボールに入れてもらう等</li> <li>・園外保育</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と一緒に体を動かす心地よさを感じる</li> <li>・鉄棒・雲梯などに挑戦する</li> <li>・ルールを守りながら友達と楽しむ</li> <li>・自分なりに頑張って運動会に参加する</li> <li>・みんなで練習したりよいところを認め合う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と一緒に体を動かす心地よさを感じる</li> <li>・自分なりの目標に向かって頑張る</li> <li>・ルールを守りながら友達と楽しむ</li> <li>・なわとびをリズムカルに遊ぶ</li> </ul>
健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活面等自分からやろうとする</li> <li>・生活習慣を思い出し慣れる</li> <li>・排便後の手洗い・水道の栓・口すぎ</li> <li>・友達と一緒に楽しく食べる</li> <li>・自分の使ったものを決められた所に片付ける</li> <li>・汗を拭く・衣服の調節・涼しい場所で過ごす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防寒具の始末・うがい・手洗い・口すぎ・暖飯の仕方</li> <li>・こぼさず姿勢よく食べる</li> <li>・自分の使ったものを自分で片付ける</li> <li>・鼻水をかむ</li> <li>・気温に応じた衣服の調節</li> <li>・いろいろな遊びで体を動かす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活リズムを思い出す・生活習慣の再確認</li> <li>・こぼさず食べる</li> <li>・教師と一緒に昼食準備・片付けをする</li> <li>・次の遊びに移る時は今遊んでいるものを片付ける</li> <li>・当番の仕事を経験する</li> <li>・戸外で十分体を動かす心地よさを感じる</li> <li>・身体測定の仕事がわかる</li> <li>・養護教諭とのかかわり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろなことを進んでする</li> <li>・風邪予防のためのうがい・手洗い</li> <li>・防寒具の始末</li> <li>・鼻水を自分でかむ</li> <li>・暖飯の仕方</li> <li>・当番活動について</li> <li>・所持品の始末</li> <li>・次の遊びに移る時の片付け・当番の仕事を経験する</li> <li>・視力検査や身体測定をきちんと受ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活リズムを思い出して、自分でする</li> <li>・うがい・手洗いの意味・進んで行う</li> <li>・戸外で遊べるように</li> <li>・休息の取り方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の見通しをもつ</li> <li>・うがい・手洗いをきちんと行う</li> <li>・暖飯について・共同で生活している場としての理解</li> <li>・戸外で体を動かす</li> </ul>

安 全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭の使い方（走る場所や練習する場所と3歳児が遊ぶ場所の区別）</li> <li>・遊具の使い方を守る</li> <li>・集団行動の必要性がわかる</li> <li>・ルールを守る大切さがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>小型箱積み木の安全な使い方</u>がわかる</li> <li>・<u>焚き火の危険区域について</u></li> <li>・<u>防火避難訓練を行う（自由に遊ぶ時）</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸外の遊具の安全な使い方の再確認</li> <li>・園庭の使い方（走る場所や練習する場所と皆が遊ぶ場所の区別）</li> <li>・集団行動が必要な時がわかる</li> <li>・避難の仕方の再確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場所を考えた遊ぶ</li> <li>・なわとびの縄の扱い方</li> <li>・<u>中型箱積み木の安全な使い方</u></li> <li>・<u>焚き火の危険区域について</u></li> <li>・<u>園外に出た時の安全な歩き方</u>・<u>園外の遊具の安全な使用</u></li> <li>・<u>防火避難訓練を行う</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭の使い方（走る場所や練習する場所と皆が遊ぶ場所の区別）</li> <li>・集団行動が取れる・教師の指示に気をつける</li> <li>・公共の場での行動面・公道の歩き方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なわとびの縄の扱い方・片付け方</li> <li>・大型箱積み木の安全な使い方</li> <li>・焚き火の危険区域について・防火用水について</li> <li>・防火避難訓練を行う</li> </ul>
--------	--	--	---	--	--	--

表3 指導計画の評価に表出された新しい視点についての分類と内容

カテゴリー	内容	具体例
A	本年度の幼児の様子に合わせ、実際の保育の場面で計画よりもさらに援助や環境構成を工夫した点についての記述	「ハサミの扱いよりも紙を支える手の動きがうまく出来ない子が多いことから、丸を切る教材を考えてみた。赤い丸を切り、リングとして皆がよく目にするピアノの後ろに貼ってみた」（3歳4期）
B	その保育者自身が「気になる」と感じる幼児や出来事についての記述	「トラブルになるような友達がいない子というのが問題だと思うので、今後深く付き合える人間関係を育てていかなければならない」（4歳3期）
C	その期には計画していなかった想定外の出来事に関する記述	「（星組の）お化け屋敷だけではなく、中に入って中型箱積み木を使っていた。さらに10月になると旗立台や星組のテラスで積み木を使うことが当たり前になってきた。星組や年長女児ともよく遊ぶ。こんなに境界線のないクラスは初めてである」（4歳3期）
D	保護者への対応などについての記述	「3期はトラブルが増えたので、その日トラブルがあった子・けがをした子・させた子等の保護者には丁寧に話し、余計な心配やしこりが残らないように配慮した」（3歳3期）

表4 新たな視点の具体的内容 (学年・期別)

カテゴリー	3歳		4歳		5歳	
	3期	4期	3期	4期	3期	4期
A	ハサミの使い方について、その指導方法	手遊びの様子 製作コーナーの環境構成の工夫	ごっこ遊びの様子 マラカス製作と遊びの工夫	中型箱積み木の様子 ごっこ遊びの様子	大型箱積み木の指導の工夫 大型箱積み木を介した友達とのかかわりについて	個人差に対応していくための個々への援助の工夫や必要性 絵の具描画での友達同士の教え合いについて
	表現の指導の工夫と環境構成	マジックの使い方	降園時の活用の仕方の工夫	折り紙指導の工夫	他学年とのかかわりの様子	
	砂場の使い方の工夫	ソフトな積み木について	いつもの遊びと運動会関連の活動とのバランスの取り方	絵の具での描画の工夫		
	歌の指導の工夫	引越しゲームの様子	食後の休みについて	ハサミ・のりの指導の工夫		
	リズム表現に取り組む為の環境の工夫		ドロケイの導入	楽器の導入について		
	三輪車・スクーターなどの使い方の工夫					
B	汚い言葉遣いについて	トラブルを起こさない幼児	気になる子の様子	トラブルの要因 月齢の低い幼児の育ち	遊びの片付けについて 情報の集団への伝わり方	集中して活動に取り組む姿 教師よりも友達との関係を重視する意識
	視聴覚教材への反応と幼児の理解	初めての行事に不安が高い幼児	集団の情緒の安定や遊び始めの様子	女児の友達関係 幼児が甘える姿	幼児の小学校就学への意識	一緒に生活している年長児2クラスのそれぞれの姿について
	TV番組などへの幼児の興味	遊びのイメージを伝える言葉の指導 視聴覚教材への幼児の理解	行動面で落ち着きが見られた場面 遊びへの意欲 じゃんけんの様子 遊びの継続性	製作への取り組みの個人差		
C	弁当のマナー 食事の片付け方		クイズ・ゲームについて お話の会について 天候不順について	自然物を介した友達とのかかわり 日程変更について 隣のクラスとの交流の多さ・内容 環境ISOの紙芝居	自然物を介した友達とのかかわり	
D	保護者へのトラブルの伝え方	ふれあいの日の様子 面談で多かった質問内容	保護者の保育参加の様子	保護者同士のトラブルの保育への影響 保護者の運動会での活躍		

当園の長期指導計画は「子どもの姿」「ねらいと内容」「環境構成と教師の援助」「行事」という枠組みで保育の概要を示し、具体的な保育内容については以下の8つのキーワードを基に構成されていた。8つのキーワードとは、「人間関係」「言葉」「表現」「連携」「自然」「運動」「健康」「安全」である<sup>3</sup>。担任保育者は、長期指導計画の内容を振り返りながらその期の保育実践の評価を行い、自由記述していた。これら8つのキーワードごとに振り返って記述した者もいたが（3歳児担任保育者）、幼児の生活や遊びのまとまりごとに記述した者が2名（4歳児担任保育者）、「ねらい」ごとに振り返って記述した者が2名（5歳児担任保育者）であった。これは、それぞれの学年の幼児の様子に合った記述の仕方でも評価していたものと思われる。学年が進むほど、遊びや活動の中身が増え総合的な内容が増えていくため、細かい切り口で記述していくことに適さなくなってきたと言える。

園の長期指導計画の内容を8つのキーワードごとに整理抜粋し、項目化したものが表2である。予め計画にあった内容のうち、実際の評価で触れられていた項目をアンダーラインで示した。この年は、本園で「人間関係」の評価につ

いて重点的に研究していた年であったので、キーワードの「人間関係」については評価項目が予め細かく設定され、項目ごとに評価が行われていた。しかし他のキーワードについては、担任保育者は項目に従って評価していくのではなく、前述したようにまとめ方がそれぞれ異なる自由記述をしていたため、評価の中に触れられていない項目も見られた。

## ②新しい視点の分類

担任保育者による自由記述の中には、予め計画に織り込まれていた視点と保育実践によって出てきた新しい視点の両方があったが、新しい視点は、各担任保育者が記述しておく必要や重要性を感じたものである。「これは大事なことだった」と考えたことにはその担任保育者の保育観や個性が表れており、また通常、計画通りには進まない保育実践の大切なポイントを含んでいるものと思われる。これらの内容を4つのカテゴリーに分類した（表3）。最も記述の多かったのは、カテゴリーA「本年度の様子に合わせ、実際の保育の場面で計画よりもさらに援助や環境構成を工夫した点についての記述」である（表4）。これらは、保育実践が計画を超えて発展した事例や計画を発展的に変更する必

表5 内省報告のまとめ

質問項目	3歳児		4歳児（新入組）		4歳児（進級組）		5歳児（合同）	
	3期	4期	3期	4期	3期	4期	3期	4期
1「大変なこと」	子どもの指導	子どもの指導	子どもの指導	子どもの指導	教材研究	保護者への対応	子どもへの指導	教材研究
2「よかった」	教材研究	教師の連携	教材研究	教師の連携	教師の連携	子どもへの指導	子どもへの指導	教材研究
3「書き切れないこと」	保護者のこと	降園後の友達関係のトラブル	特定の子ども	保護者のこと	個々の子どもの成長やエピソード	保護者のこと	個々の子どもの細かいことや指導しきれなかったこと	個々の子どもへの対応
4「評価が難しいこと」	「自分の気持ちを出せたか」「相手の思いに気付いたか」等内面のことについては姿が捉えにくい	「教師とのかかわり」についての観点期だったが、実際には教師とのかかわりが必要な子がいる「相手の思いに気付く」は具体的な姿を捉えにくい	「いろいろな考えをもった子がいる」等内面ことは姿がとらえにくい	人間関係についての評価観点は細かくて評価しにくく重複もある	「隣の組と一緒に楽しめたか」という項目は集団の姿の捉え方が難しい	「隣の組と一緒に楽しめたか」という項目は集団の姿の捉え方が難しい	いくつかの評価観点について重複している一方書き落としもあるのではないかと	特になし
5「評価しやすいこと」	生活習慣	生活習慣	行事	行事	教師から提示した活動	活動の経過は指導案等を振り返ればよい	重点的に指導したこと	特になし
6「その他・自由記述」	特になし	特になし	教師の連携で助けられたこと	特になし	評価の客観性について、自己満足に終わらないようにしたい	自分の見方に固定されないようにしたい	特になし	小学校就学へ向けて保護者への対応をしっかりしていきたい



要性があった事例である。環境構成や教材などの工夫について具体的に述べられており、保育の技術に関しての多くの示唆が含まれる。次に多かったのは、カテゴリ-B「その保育者自身が『気になる』と感じる幼児や出来事についての記述」であった。保育の中で担任にとって「ちょっと引かかる」と感じた出来事である。担任の心にインパクトの残った出来事であり、援助の手立ての難しさが垣間見られる事柄である。カテゴリ-C「その期には計画していなかった想定外の出来事に関する記述」は、突発的に入った行事や指導、幼児の様子である。カテゴリ-D「保護者への対応などについての記述」については、もともと長期指導計画の方に保護者についての事柄が多く入っているものではないこともあって、評価で特記されている面もあるかもしれないが、幼児同士のトラブルなど保育に直接影響があったことが記述されていた。いずれも、次年度にその学年を持つ担任保育者にとっては役立つ情報であると言えよう。

### ③内省報告

内省報告は3期・4期の長期指導計画に沿った評価が済んだ後に、主に記述形式で回答してもらった(10月と12月)。

質問項目1と2はその期の保育についての感想などであり、その他の項目は評価についての感想などであった。表5に示したように、質問項目1の「その期の保育について大変だった、気になったこと」については「子どもの指導」を選択している者が多かった。また、質問項目2の「その期の保育でよかった、うまくいったと思うこと」では、「教材研究」、「保育者の連携」、「子どもへの指導」それぞれが選択されていた。選択に挙げられていなかったのは「保護者への対応」であった。しかし、次の質問項目3「評価に書ききれなかったこと」では「保護者のこと」を挙げる者も3名いた。

②にあったように、保護者への対応については、あまり長期指導計画に入っていないこともあって評価の中には若干特記されているものの、記録として残るクラスの評価としては「書ききれない」とされたのではないかと。同様に「書ききれない」ものとして「特定の子どものこと」を挙げた者も3名あった。保護者や特定の幼児の事例に関しては、担任保育者は別に個人記録もつけているので、指導計画に沿った評価の中には詳細に書き込まなかったのではないと思われる。実際に「個人記録の方に書いて

いるので」としていた者もいた。

質問項目4の「評価で困ったこと・難しかったこと」では、本園が「人間関係」の指導を重点に研究していた時期であり、「人間関係」について他の7つのキーワードよりも評価項目が細かく決められていたこともあって評価の難しさを挙げている者が多かった。特に幼児の内面の変化をどのような姿で捉えていくのかについての難しさが挙げられていた(3歳児担任保育者3期・4期, 4歳児担任保育者(新入組)3期, 4歳児担任保育者(進級組)3期・4期)。

逆に、質問項目5の「評価しやすかったもの」では、生活習慣(3歳児担任保育者)、行事(4歳児担任保育者(新入組)), 活動(4歳児担任保育者(進級組)), 重点的に指導したこと(5歳児担任保育者)とされ、担任保育者が計画の柱立てをしたり、活動のように決まった流れを日々の記録で追っていったりできるものについては振り返りやすいことが明らかになった。

## 4 考察

本研究では、担任保育者による長期指導計画に沿った保育の評価の記述内容を分析したところ、長期指導計画に沿って評価していった記述と、計画には織り込まれていなかった記述の両方が見られた。計画に織り込まれていなかった出来事の記述については、保育の成功や失敗にかかわらず担任保育者として記述しておく必要性を感じた事柄であると考えられる。それらの視点は、次の期の計画や来年度の同じ組の計画に取り入れていけるものであり、保育の計画、実践、評価のサイクルの中で大切な情報であると考えられる。

今回の研究では、結果を見ると長期指導計画の内容すべてについて評価が記述されているわけではないことがわかる(表2)。また、前述したように長期指導計画には織り込まれていなかった内容の評価の記述が出てきていた。これは長期指導計画作成時に担任保育者が保育を想定した枠組みと保育実践後に保育を振り返る際の枠組みが変化したことの本表れと捉えることができる。今回は評価の仕方が自由記述であったことから、各担任保育者の保育を捉える枠組みが表れやすかったと考えられる。保育を振り返ることは、自分の記憶や書かれたたくさんの計画や記録などを併せて保育について再考するものであり、当事者にとっては簡単なこととは

言えないものである。そこで、評価項目を決めて記述していく方法も取られることがあるが、決められた項目だけを評価しても保育の工夫や想定外の出来事など実際の保育実践の姿は捉えることができず、保育者にとって保育の質を高めるような情報が出てくるのが少なくなると思われる。保育を振り返るにあたっては、計画が実行できたかという計画に沿った視点と共に、計画にとらわれない視点も大切にしていけるべきであろう。

次に、保育者の力量形成について考えてみたい。研究の目的で述べたように、保育者の専門性が多岐にわたる中、保育者の保育そのものを向上させていくためには振り返る行為そのものが大切であり、その繰り返し幼児理解と適切な援助につながっていくものとされている（「幼稚園教育要領解説」P45）。筆者らはそのことに加え、これまでも様々な研究によって述べられたことであるが、言語化あるいは記述することの大切さも強調したい。

特に記述では、記述する段階で何を取り上げ、何を捨てたか、という点にその保育者の自分への評価が反映されやすく、自分の保育での判断の根拠についての自覚化が促されると思われる。また、言語化する時に考えをまとめたり、次の手立てを考えたりすることは、即、力量形成に役立つものと思われる。書いたものは自分自身で読み返すこともあるであろうし、次にその学年を担当する保育者にも様々な形で寄与していくものであろうと思われる。

本研究では記述したものを取り上げたが、保育者同士で話し合うこともまた言葉を通して互いに認識を深めていく意味で有効なものである。田中ら（1996）は、実際に園の保育者全員で継続したカンファレンスを実施し、「共有主観」を持つようになることで自分達の保育実践からの理論形成が可能であることを示唆している<sup>4</sup>。カンファレンスという形を取らなくても、保育者間で自分達の保育実践について話し合うことの大切さは誰もが認識していることであり、保育者の力量形成の基本である。しかし、保育現場の状況が厳しくなっている昨今では、その時間が取れない事態も耳にするところである。上田（2003）は、保育者の力量観について、保育者が反省・評価を行う場合、幼稚園よりも保育所の方が一人で行うことが多いという結果を示している<sup>5</sup>。保育の評価は個人で行うだけでなく、学年や園全体で共有していく方が保育

の質を向上させていくと思われる。

保育実践では計画外のことが起こった時にその場で柔軟に対応・判断できることが求められる。これは、新任保育者や経験の浅い保育者にとっては難しいことであり、保育の仕事が経験主義に偏りがちな要因でもある。保育実践の場で様々な事態に対応していく力をつける為にも、互いの評価記述を読み合ったり、一緒に振り返ったりすることが大切であろう。本研究では、計画になかったことの記述について4つのカテゴリーに分類したが、これらはどれも実際の保育実践に有用な情報であると考えられ、このような事例を伝え合うことは保育の質の向上に寄与するものであろう。特にカテゴリーAはそれぞれの保育者の保育技術を含んだ情報であって、子ども達に合わせて計画を修正し、援助や環境構成をどのように変えていったのかという具体的な示唆が含まれている。保育では、子ども達とのかかわり、つまり、保育実践そのもののために計画も評価もあるので、このように計画や保育実践に直接寄与する情報は貴重であると考えられる。

当園では、長期指導計画の評価に関しては次年度の保育者が閲覧できるような形にしているということである。このように、過去の反省・評価を保育者間で共有できることは、園全体としての保育の質を確保していくことに寄与していると思われる。しかし一方では閲覧可能だからこそ「書ききれない」あるいははっきり書くことがばかられる、と担任保育者が感じることも内省報告からは示唆された。このことについては、さらにいろいろな手立てや工夫が必要であろう。

## 引用文献

- 1 文部科学省 2002 幼稚園教員の資質向上について—自ら学ぶ幼稚園教員のために—（報告）幼稚園教員の資質に関する調査研究協力者会議報告書（座長 無藤隆）pp. 3-7.
- 2 文部科学省 2008 幼稚園教育要領解説 フレーベル館 p.45.
- 3 中島千恵子 2004 研究の内容 千葉大学教育学部附属幼稚園平成16年度研究紀要 pp.4-5.
- 4 田中三保子・栢田正子・吉岡晶子・伊集院理子・上坂元絵里・高橋陽子・尾形節子・田中都慈子・田代和美 1996 保育カンフ

ァレンスの検討—第1部現場の立場から考える—  
—第2部研究者の立場から考える—  
保育学研究 第31巻第1号 pp.29-42.

- 5 上田淑子 2003 保育者の力量観の研究—  
幼稚園と保育所の保育者の比較検討から—  
保育学研究 第41巻第2号 pp.24-31.

### 参考文献

- 秋田喜代美・箕輪潤子・高櫻綾子 2007 保育  
の質研究の展望と課題. 東京大学大学院教  
育学研究科紀要 第47巻 pp.289-305.  
岩立志津夫・諏訪きぬ・土方弘子・金田利子・  
木下孝司・斉藤政子「3歳児未満児保育の  
質尺度案1997」による公私立差・地域差・  
保母の年齢差の検討 1998 保育学研究  
第36巻第2号 pp.87-93.

### 謝 辞

本研究にご協力いただきましたT大学教育学  
部附属幼稚園の教職員の皆様に心より感謝申し  
上げます。またご助言いただきました千葉大学  
教育学部教授中澤潤先生に御礼申し上げます。